

再評価結果（平成28年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課

担当課長名：川崎 茂信

事業名 一般国道497号 <small>い ま り ま つ う ら</small> 伊万里松浦道路	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 九州地方整備局			
起終点 自：佐賀県伊万里市東山代町長浜 <small>い ま り し ひ が し や ま し る ち ょ う な が は ま</small> 至：長崎県松浦市志佐町 <small>ま つ う ら し し き ち ょ う</small>	延長 17.2km				
事業概要 伊万里松浦道路は、西九州自動車道の一部を形成する高規格幹線道路であり、九州北西部の広域的な連携を図り、地域活性化や観光の支援等を目的とした事業である。					
H9年度事業化	H17年度都市計画決定 (H - 年度変更)	H19年度用地着手	H20年度工事着手		
全体事業費	約712億円	事業進捗率	46%	供用済延長	5.5km
計画交通量	8,300～12,900台/日				
費用対効果分析結果	B / C (事業全体)	総費用 (残事業)/(事業全体) 293/699億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 836/904億円	基準年 平成27年	
	(残事業)	事業費：265/652億円 維持管理費：28/47億円	走行時間短縮便益：659/712億円 走行経費減少便益：126/134億円 交通事故減少便益：52/58億円		
感度分析の結果 【事業全体】交通量：B/C=1.2～1.4(交通量±10%) 事業費：B/C=1.2～1.3(事業費±10%) 事業期間：B/C=1.3～1.4(事業期間±20%)					
事業の効果等 広域交通ネットワークの形成 ・沿線各都市間の所要時間短縮等により九州北西部の地域経済の活性化、高速定時性の確保に大きく貢献 観光産業の支援 ・観光施設へのアクセスが向上し、沿線地域の観光産業の活性化を支援 地域産業の支援 ・輸送時間の短縮や荷傷み軽減により、市場価格の更なる向上や取扱量の増加が見込まれ、地域産業の活性化に寄与 医療施設までのアクセス改善 ・第二次救急医療施設(山元記念病院)への救急搬送の支援及び救急搬送時間短縮による救命率の向上 生活環境の改善 ・自動車の走行性向上による環境への影響低減(CO ₂ , NO ₂ , SPM削減)					

関係する地方公共団体等の意見

唐津市・伊万里市をはじめとする8市4町で構成される「西九州自動車道建設促進期成会（会長：伊万里市長）、西九州自動車道の沿線3県や福岡市及び関係道路管理団体（各県道路公社・西日本高速道路(株)）で構成される「西九州自動車道建設推進協議会（会長：長崎県知事）等により早期整備の要望を受けている。（平成27年11月、平成27年8月）

県の意見：

（佐賀県）

整備を強く望んでいるところであり、継続することについては、異議ありません。

小さな都市が分散している当県において、地域や産業の活性化のためには、広域的な幹線道路ネットワークの整備が不可欠と考えており、西九州自動車道、有明海沿岸道路、佐賀唐津道路、国道498号の4つの幹線道路の整備を重点項目に掲げて、最優先に取り組んでいる。西九州自動車道は、福岡県から唐津市・伊万里市を結ぶ重要な道路と認識しており、伊万里港では、2014年にコンテナ取扱量が過去最多を記録した。

この背景には、西九州自動車道が大きく寄与していると考えており、伊万里松浦道路が整備促進されることにより、さらなる人・物の交流が促進されると期待していることから、整備を進めて頂きたい。

事業費の変更はやむを得ないものの、今後ともコスト縮減に努めて頂きたい。

（長崎県）

伊万里松浦道路については、西九州自動車道の一部を形成し、九州北西部の広域的な連携を図り、地域活性化や観光の支援に寄与するものであります。

本県においては、西九州自動車道の整備が進むにつれ、松浦地域の民泊の急増や新たな産業の創出等の効果が現れてきており、そのストック効果を最大限発揮するためには、早期整備が必要と考えております。

このため、「対応方針（原案）」のとおり、事業継続をお願い致します。

なお、長崎県側の今福IC～松浦IC間については、用地買収も完了していることから、地域活性化に弾みをつけるためにも、一日も早い完成と必要な予算の確保について併せてお願い致します。

事業評価監視委員会の意見

審議の結果、事業継続。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

沿線地域の人口は減少傾向。長崎県と福岡県の交流人口及び沿線地域の観光客数は増加傾向。開通区間を含む断面交通量は増加傾向。

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成9年度に事業化、用地進捗率58%、事業進捗率46%（平成27年3月末時点）

平成26年度：山代久原IC～今福IC間 延長5.5km（2/2）部分開通

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

地元や関係機関との協力体制のもと、今後も引き続き残工事等の事業進捗を図っていく。

平成29年度：今福IC～調川IC間 延長2.6km（2/2）開通予定

平成30年度：調川IC～松浦IC間 延長2.2km（2/2）開通予定

施設の構造や工法の変更等

・トンネル工事費の見直し 【約36億円増】

・補強土壁の壁面パネル大型化【約1億円減】

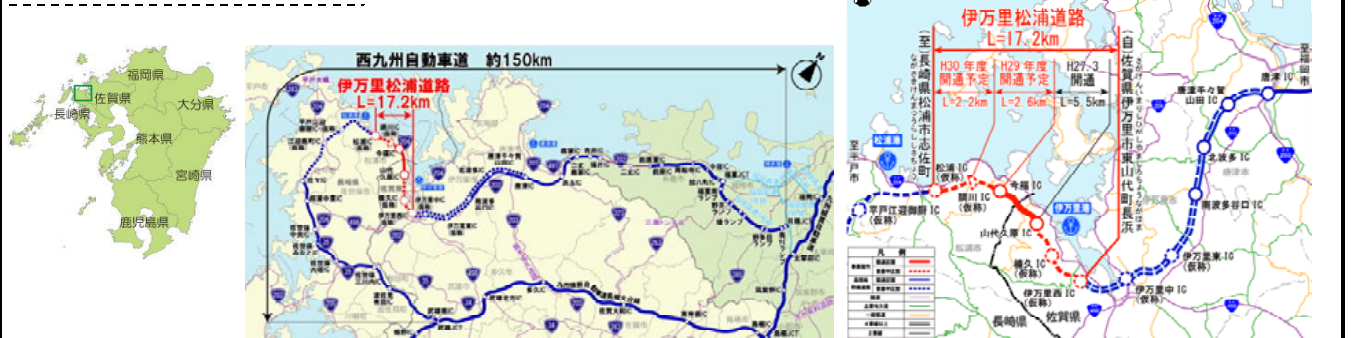
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。